

る地域では、この制度を使
つてさまざまな取り組みを
していますが、現在どうい
った形で取り組んでいるの
か、また、近年の納税額の
推移は、その使い道は、そ
して、今後この制度を利用
した取り組みをどうしてい
くのか、お聞きします。

福井町長

ふるさと納税制度は、総務省の地方活性化策の目玉として、平成20年度から取り組んでいる事業ですが、平成27年からはふるさと納税枠が約2倍に拡充されること、あるいは「ふるさと納税ワンストップ特例制度」が創設されるなど、さらに使い易い制度としてPRされています。牟岐町としても町のHPでPRしたり、近畿牟岐会などで紹介する等の取り組みをしており、お礼として、町の特産品をお返ししています。今後、地元産品のお礼をする等の積極的なPRを行いながらふるさと納税の推進と、地元産品のPRを促進したいと考えています。

仁田総務課長

ふるさと納税の実績ですが、平成20年から寄付を受けています。20年度6件、570千円、21年度4件、270千円、22年度4件、405千円、23年度6件、705千円、24年度5件、312千円、25年度7件、402千円、26年度11件、747千円、これまでの総額が3411千円です。この寄付金の充当先は、中学校の消火器、うみの木の絵本発行、保育園・小学校の備品等に充当しました。お礼の品物は、町の産品3千円程度と町長のお礼状を添えてお送りしています。

国道及び県・町道沿いの美化について

森議員

昨今、道路沿いに草がおい茂っていて、場所によってはガードレールが覆い隠されていたり、歩道の歩行が困難になっているような箇所が目立ちます。国道55



雑草が茂る国道55号

号線は昔から遍路道として多くのお遍路さんが歩んでこられた道で、近年増加している外国人観光客ともあいまって、国内の遍路人口もさらに増えています。このような方達が、この状態の道を歩き、どんな感想を抱くでしょうか。これは町だけの問題ではなく、県全体へのマイナスイメージにもつながると思います。また、問題は景観だけでなく、毒蛇等の危険性もあり、安全面でも大きな問題を抱えています。過去にも被害に遭われた方もいます。こ

ういった点から早急な対応が必要だと思しますので、今後の具体的な対応策や予定をお聞きします。

福井町長

私も草が生え茂る国道を、お遍路さんが歩いていく姿を見るに見かね、2年ほど前、国土交通省徳島河川国道事務所に要請しましたが、予算が非常に厳しいとの回答でした。平成21、22年は、必要な国道管理費があり、草刈りができていたが、平成23年頃から大幅に管理費を削減され、現在もその状

態が続いているとのことで、地方創生のためにも、四国八十八ヶ所の世界遺産登録に向けた取り組みも進められていますので、旅行者が訪れても恥ずかしくないよう、まずは、幹線道路の維持管理から適切に行っていくよう、今後とも機会を捉え、国等に要請したいと考えています。

寒葉建設課長

それぞれの道路維持管理の状況は、国道は国の維持管理基準に基づき、基本的には年1回の頻度で実施しているとお聞きしています。県道は、日和佐牟岐線は、年2回除草を実施、牟岐海南線は年1回実施している。一部区間については、県直営で2回実施している現状です。町道は、草刈を直営にて交通量の多い路線より年1回から3回実施している現状です。今後については、国、県も同じと思いますが、地域の方々・ボランティア等での対応も含めて効率的な維持管理を考慮して対応していきます。